



二宮町立山西小学校
学校便り「ゆずり葉」
第 98 号
山西小学校 72-3777

○運動会を通してつなげやかな子どもに!

明治一六年（今から一三六年前）、勉強ばかりしている潤いがなくなるといことから、多くのの人に見せるために現在の東京大学が始めたもの、それが「運動会」だそうです。

今年の運動会は、九月二十八日（土）にさわやかな天候の中で行われました。久しぶりに雨対策を考えないで済みました。

運動会のめあてとスローガンは次の通りです。

《めあて》

一、運動やゲームを通して競争する楽しさや課題を達成した喜びを味わわせるとともに、心身ともに健康でたくましい子どもを育てる。

二、縦割り集団（異学年集団）を活用し、友達と仲良く運動する中で、みんなと協力し合う態度を養う。

《スローガン》

『優勝へ おうえんしあい 深まるキズナ』

二学期はじめから練習がスタートしました。子どもたちは、競争に勝とうと一生懸命頑張りました。

個人競技である徒競走も、クラスでチームを作って競技する学年種目も、練習のときから緊張感がありました。勝つても相手を馬鹿にしない、負けても人のせいにならない態度を教師は言い続けてきました。本番でもさわやかな勝ち負けをたくさん観ることができました。ラグビーワールドカップが教えてくれた「ノーサイドの精神」試合が終われば敵も味方もないが、如何に大切なものであるかを子どもたちも理解してくれたと信じています。



応援合戦で互いをたたえあう

五・六年生は、縦割り班で年下の子どもたちの面倒を見ることが、運動会の係り別の仕事を担っています。テキパキと行動する五・六年生の姿に自覚を感じました。また、六年生の正々堂々と競技する心は下級生に引き継がれるでしょう。

この運動会を通して、子どもたちの心のキズナが深まっていくと思います。

朝早くからお越しいただき、子どもたちに熱いご声援をいただいた来賓や保護者の皆様、運動会に協力してくださったPTA・OBや現役員の

方々、終了後に片付けや清掃をしてくださった方々、そして地域の皆様には感謝申し上げます。



たくましく育てほしい



ダルマを落とさずに運ぶんだ

○野外活動で気づいてほしいこと

十月十八日（金）十九日（土）の二日間で、五年生が秦野戸川公園と表丹沢野外活動センターに行きました。一泊するようになって三年目です。あいにくの雨模様でしたが、外で活動するときには傘をささずに済むことができました。（不思議）
秦野戸川公園の風の吊り橋や川の流れを間近に見ることができました。一週間前の台風の影響で流されてきた流木や土砂を目の前にして、「山の空が黒っぽくなったら、上流から音がしたら、濁った水が流れてきたら土石流の危険性あり。すぐ逃げよう!」を学びました。

野外活動センターでは、八く九人のグループでカレーライスを作りました。「ご飯が少し硬かった。でも美味しかった。」というグループ、逆に

「ご飯が柔らかくなっちゃった。でも美味しかった。」というグルーブがありました。共通しているのは「**でも**美味しかった。」です。

夜のキャンドルファイヤーのときは、実行委員の子どもたちが活躍しました。歌って踊って楽しく盛り上がりました。



火起こし、お米、カレー作りのそれぞれの担当が協力して作りました

前日、子どもたちに話したことです。

一、不慣れた生活をする場面が多くあるということ

二、それを乗り切るには、文句を言わないこととわがままを出さないこと。

三、笑顔でいることと協力する気持ちを持ち続けること。

カレーライスを作るにあたっては、すべてを一人で作ることはできません。誰かしらが何かの役割を果たしています。普段あまりお話をしない友達の良い発見したことでしょう。協力し合ったことの喜びが、「**でも**美味しかった。」という感想に出ていると思います。自然の前で謙虚になることで、自然の中で生かされていることに気づき、心が洗われ、自然に対する畏敬の念、人や物などへの感謝の気持ちがあらわれてくるはず。心

優しい人になってほしいものです。



でも美味しかった



どんぐりで作ったトトロ（工作）

コミュニティ・スクール・見守り部門

日頃から登下校の際に、児童の見守りに協力してくださっている保護者や地域の皆様に改めて御礼を申し上げます。

本校では、朝の登校時間を八時十分〜八時二十五分にしています。その理由は、全児童がまとまった時間帯に歩くことで、災害等の緊急時に児童の把握がしやすくなることと、朝の忙しい時間帯に短時間での旗振り当番で済むことです。また、寄り道をしないで通学路を守って登下校することにも理由があります。一つは、比較的人通りの多い道なので防犯の効果がありません。もう一つは、

登下校中に災害等が発生したとき、保護者の方は通学路を頼りに子どもを探しに行くからです。

最近の課題は、いくつかの班が登校中にバラバラになることです。班長、副班長である高学年の子が自分の班から外れてしまい誰も注意できないケースや低学年の子に注意しても素直に言うことを聞いてくれなくて困ってしまうケースなどがあるようです。また、大人の言うことを聞かない子がいるとの情報も聞いています。登校中の秩序の乱れが危険性を高めるだけでなく、児童間のトラブルを引き起こすという別の問題にも発展しています。何とかしなければならぬのは、班がバラバラになってもかまわないという「感覚」を変えることと一般的な礼儀を躾けることです。

子どもたちを家庭や学校、地域で育てるコミュニティ・スクールです。子どもはまだまだ未熟で、できないことがたくさんあります。みんなで教え育てていきます。自分の子どもが何事もなく学校に行って帰ってくる毎日が当たり前のように感じますが、保護者が交代で旗振り当番をしているおかげです。地域の方が通学路に出てきてくれるおかげです。駐在所のおまわりさんが子どもたちに寄り添ってくれているおかげです。まず、各ご家庭で、自分のお子さんがどのような感覚をもっているか、安全な登校をしているか、他の人への礼儀はどうかを再確認していただき、安全を守っている人たちの有難さを説いてください。「お互いさま」「おかげさま」の心を子どもたちに教えることが大人の役割です。